

公益財団法人としての 練馬総合病院の役割と活動方針



公益財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院
理事長・院長 飯田修平

公益財団法人とは何か

公益法人制度改革により、従来の公益法人は平成25年3月までは特定法人として存続し、平成25年4月以降は、公益財団・一般財団あるいは医療法人とならなければならない。
公益とは、不特定多数の利益になることである。
医療をしているだけでは公益とは言えない。

当院が公益財団法人として認可されたのは、
研究一体型医療の実践の成果である。

*公益財団法人東京都医療保健協会定款

(目的) 第2章 目的及び事業

第3条 本財団は、国民の保健向上に必要な医療をなし、地域医療を担う中核的な病院として貢献し、特に生活習慣病及び**高齢患者**に対する療法とその療養生活の指導並びに研究、及び**安全で質の高い医療を提供するための科学的な管理手法の研究開発・実践**のために医療・**介護施設**の設置経営とそれに附随する事業を実施し国民の健康保持に寄与することを目的とする。

TQM/MQIの実践

(事業)

第4条 本財団は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) **医療安全・質の向上のための調査・研究・実践**
- (2) 生活習慣病予防に関する調査・研究・実践
- (3) 地域における公衆衛生の向上のための調査・研究・実践
- (4) 医療・**介護施設等**の設置・運営
- (5) その他本財団の目的を達成するために必要な事業

2. 前項の事業は、東京都において行うものとする。

就業規則改訂

第1条の1 (法人の基本的な考え方)・・・**新たに記載**

公益財団法人東京都医療保健協会は、国民の保健向上に必要な医療を実践し、地域医療を担う中核的な病院として貢献することを目的に以下の事業を行います。

1. 医療、特に生活習慣病および**高齢患者**に対する治療とその療養生活の指導並びに研究
2. **安全で質の高い医療を提供するための科学的な管理手法の研究開発・実践**のために医療・**介護施設**の設置経営とその附随事業

経営理念

2001.1 改訂

「職員が働きたい、働いて良かった。
患者さんがかかりたい、かかって良かった。
地域があって欲しい、あるので安心、
と言える 医療を提供する。

**職員、患者、地域が、ともに満足できる
医療(経営)をおこなう。**

**基本的考え方： 職員満足があつてはじめて、
患者満足が得られる。**

基本的考え方(品質方針)

職員、患者、地域がともに良かったと思える
(満足できる)経営(医療)をおこなう。

1. 常に、相手の立場を考え、安心し、信頼される医療をおこなう。
2. 住民が安心して生活できるように、
知織・技術・人間性を磨き、業務をおこなう。
3. 組織横断的に連携をはかり、各人が役割を果たし、
継続的な医療の質向上を実践する。
4. 患者さんをはじめとする関係者の顕在的・潜在的要望や
苦情に迅速かつ適切に対応する。
5. 社会の変化や医学の進歩に即した医療をおこなう。

患者・職員への倫理綱領の明示

わたくしたちの病院の目標

- 患者さんに公正な医療を提供します。
- 医師による説明と患者さんの選状に基づく医療を進めます。
- 患者さんのプライバシーを尊重します。
- 診療情報と患者さん自身にお伝えします。
- より良い医療がおこなわれるよう、研修、研鑽いたします。
- 患者さんの人生が最後まで豊かであるように、その意思を尊重します
- 以上の事をするためにも患者さんのご協力をお願いいたします

練馬総合病院

* 科学的管理手法の研究・開発

医療の質向上活動

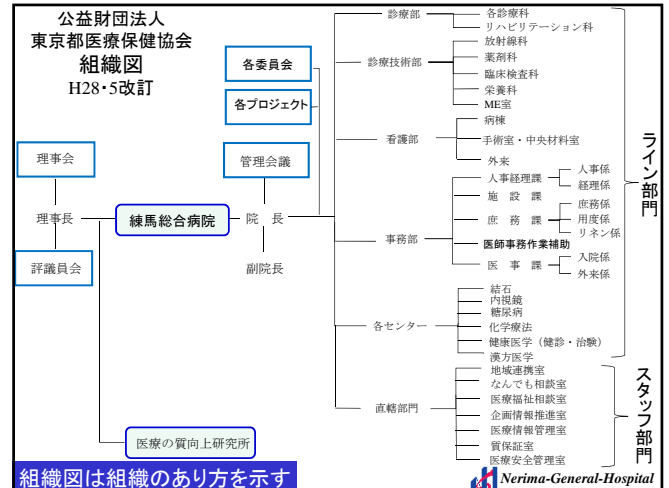
旧法人から、戦略的に公益活動を実践し、科学的管理手法の研究・開発を実施してきた。

活動の成果が評価されて、公益財団法人として認可された。

新法人の目的に

「科学的管理手法の研究開発・実践」を明記した。

医療の質向上研究所設置提案の理由



医療の質向上研究所規程

第2条 研究所は、本財団の定款に基づき、医療、特に生活習慣病及び高齢患者に対する療法とその療養生活の指導並びに研究、及び安全で質の高い医療を提供するための科学的管理手法の研究開発とそれに附帯する事業を実施することを目的とする。

第3条 研究所は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1) 医療安全・質の向上のための調査・研究・実践
- 2) 生活習慣病予防に関する調査・研究・実践
- 3) 地域における公衆衛生の向上のための調査・研究・実践
- 4) 医療・介護施設等の設置・運営に関する研究
- 5) その他本財団の目的を達成するために必要な事業

平成28年の事業計画(方針・目標)

平成28年の方針:

- 1 境界の撤廃 (Boundarylessness) 境界の破壊ではなく、有機的連携
- 2 挑戦 (Stretch) 分をわきまえて、分を超える
- 3 迅速 (Speed) "今"が重要
- 4 MQIの再構築 MQI活動を円滑にする
- 5 プロセスオーナーとなる 業務を制御する(自分中心)

平成28年の目標

- 1 横断的組織運営理論の実践 自部署、他部署の業務把握
- 2 真剣に努力しないと 楽な仕事はない、楽に仕事をする
- 3 適時適切な業務遂行 業務フロー把握
- 4 MQI²の実現 目標設定と進捗管理の徹底
- 5 リーダシップ交代理論の実践 仕事に誇りを持つ・仕事を楽しむ

* 教育研修主題		MQI主題
H4	コミュニケーション	
H5	共感	
H6	医療における信頼の創造	
H7	気づき、新しい自分	
H8	自分で考え、実践する	時間
H9	つながり	情報
H10	ながれ	ながれ パス
H11	しくみ	業務の一貫性を考慮し、 教育研修と同じにする
H12	標準化	
H13	安全	
H14	評価	
H15	5S	
H16	5S	
H17	創る —新病院建築に向けて—	
H18	造る —手造りの病院—	
H19	再生	
H20	発展の芽を育てる	
H21	伸芽 —自分ができること—	
H22	効率化 —ムリ・ムラ・ムダをなくす—	
H23	見直す—見る、視る、観る、看る、診る—	
H24	自分で考え、実践する	
H25	再構築	
H26	ながれ—自分の役割を知る—	
H27	視点を変える	
H28	アサーション—適切な意思疎通・情報伝達—	